ポケットモンスターBW物語～ハレタと７人の勇者達

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポケットモンスターＢＷ物語～ハレタと7人の勇者達

【Ｎコード】
Ｎ１６７５Ｓ

【作者名】
ユーリ

【あらすじ】
ギンガ団壊滅から5年・・・新たな闇の組織『プラズマ団』に立ち向かうべく、３人の少年少女が立ち上がった。まだ見ぬ世界で、未知のポケモン達が彼らを待っていた・・・

第０１話：旅立ち（前書き）

この小説はマンガ『ポケモンＤＰ物語』から５年後の世界という設定です。
先に『ポケモンＤＰ物語』を読む事をオススメします。

第０１話：旅立ち

ポケットモンスター、縮めて『ポケモン』。

動物図鑑には載っていない、不思議な不思議な生き物。

その数は、

１００。

２００。

３００。

４００。

それを知る者はいない。

人々はある時はポケモンと友達のように遊び、またある時は共に戦うパートナーとして扱っている。

これは、シンオウ地方のある1人の少年の物語である・・・

「ムウマージ、そこだ！サイコキネシス！！」

「ムウ！マージッ！！」

キィィン！！

「あう！ブニャット、シャドークローよ！！」

「ブニャ～ッ！！」

ザシュ！！

「よしっ！これで勝っ・・・た？」

バタリ！

「『道連れ』。さっき放っておいたんだ。」

ホノカ『元ギンガ団幹部』

「参りました～！！やっぱりハレタは強いわぁ・・・」

この少年の名は、ハレタ。

シンオウ地方最強のポケモントレーナーであり、今や国際警察1の強さを持つ少年である。

彼と戦っていた少女は、ホノカ。

元はギンガ団の幹部だったが、今は足を洗い国際警察の1人となっている。

ギンガ団にいた時のコードネームは『マーズ』だ。

ハレタ

「ホノカも筋が良いよ。もう少し強くなればトップ5に入れるんじゃないか？」

ホノカ
「そっかぁ。早く強くなりたいな。」

「ハレタ！ホノカ！」

ハレタとホノカが振り向くと、1人の少女が走って来た。

彼女の名前はミツミ。

ハレタの仲間の1人だ。

ハレタ
「ミツミ、どうしたんだ？」

ミツミ
「ハンサムさんが呼んでるわ。一緒に来て。」

ミツミ
「連れて来ました、ハンサムさん。」

ハンサム
「ウム、ご苦労。さて、今回君達を呼んだのは、近頃ウワサになっているある組織を調査してほしいからなのだ。」

ハレタ

「ある組織？」

ハンサム
「ウム。名を『プラズマ団』と言ってな。『ポケモンの解放』を名目に、人々からポケモンを奪っているとんでもない輩なのだ！」

ホノカ
「ヒドい！」

ハンサム
「そのプラズマ団なる組織が、遠く離れたイッシュ地方という場所で暗躍しているという知らせを聞いてな。その組織を調査しようと思っていたのだ。だが私は国際警察でも上の人間。顔を知られておる。そこで、君達に行ってもらいたいのだ。」

ハレタ
「わかった！オイラは行くぜ。」

ミツミ
「ハンサムさん、イッシュ地方にはこっちのポケモンを持ち込めないんでしょうか？」

ハンサム
「ウム・・・イッシュ地方にどんなポケモンが生息しているかわからんからな。無闇にシンオウ地方等のポケモンを持ち込めば、混乱を招くかもしれん。」

ホノカ
「そうですか。」

ハンサム
「だが心配無用！ナナカマド博士が向こうの博士と知り合いでな。
３匹のポケモンを用意してもらえる事になっている。」

ハレタ
「そうとわかれば、早く行こうぜ！！」

ハンサム
「その意気だ。トバリシティに飛行機を用意してあるから、それに
乗って行ってくれ。」

ハレタ
「おう！」

ミツミ・ホノカ
「はい！！」

こうして、ハレタ・ミツミ・ホノカの３人の旅が始まったのだった。

第０２話：イッシュ地方での出会い

ハレタ達は飛行機に乗って、イッシュ地方のカノコタウンにやって来た。

ハレタ
「ここか～、イッシュ地方ってのは。」

ホノカ
「のどかで過ごしやすそうな所ね。」

ミツミ
「アララギ博士の家はあそこかしら？」

コンコン！

「は～い。」

ガチャッ！

「あら、あなた達は・・・ナナカマド博士から連絡のあったハレタ君と、その友達？」

ミツミ
「はい！あなたがアララギ博士ですね？」

アララギ博士
「そうよ！ようこそ、ヤングガールにヤングボーイ！私の名前はアララギ！このイッシュ地方でポケモンの研究をしています。話はナ

ナカマド博士とハンサムさんから聞いたわ。こんな遠い所まではるばるよく来ました。」

ハレタ
「オイラ達、国際警察の一員なんだ！このイッシュにはびこる悪いヤツらを倒しに来たんだぜ。」

アララギ
「あら、それは頼もしいわ。じゃあ早速だけど、これを受け取ってもらえるかしら？」

アララギ博士はモンスターボールが３つ入った箱を差し出した。

アララギ
「この中には新種のポケモンが３匹います。好きなものを選んでね。左が草タイプのツタージャ、真ん中が炎タイプのポカブ、右が水タイプのミジュマルよ。」

ハレタ
「オイラはミジュマルをもらうよ。」

ミツミ
「じゃあ私はポカブかな？」

ホノカ
「私はツタージャか・・・よろしくね。」

３つのモンスターボールは、嬉しそうにカタカタと揺れた。

アララギ

「これで出発の準備は整ったわね。やっぱり良いわね、トレーナーが旅立って行くところは。」

ホノカ
「え？私達の他にもいるんですか？」

アララギ
「ええ、今日の朝カノコタウンを旅立った3人のトレーナーがいてね。その3人とは長いつき合いで、言わばお姉さんのような立場なの。」

ミツミ
「そうなんですか。」

アララギ
「彼らはまだ新米だから、色々教えたけど・・・君達はベテランだから必要ないかな？」

ハレタ
「ああ、ありがとうアララギの姉ちゃん！行って来るぜ。」

ハレタ達は、アララギ博士の家を出た。

1番道路

ミツミ
「ここを抜ければカラクサタウンみたいよ。道中で何か捕獲してく？」

ハレタ
「オイラはしばらくいいや。ミツミとホノカ、何か捕れば良いよ。」

ミツミ
「じゃあ、私はあそこにいるチョロネコでも捕獲しようかしら。」

※本来、1番道路にチョロネコは出現しません。

ホノカ
「じゃあ、私はヨーテリーでも・・・」

ミツミとホノカはそれぞれポケモンを捕獲し、ハレタ達3人はポケモンを鍛えながらカラクサタウンに着いた。

ミツミ
「あら？あそこに誰かいる・・・」

ベンチに座っていたボウシの青年は、ハレタ達を見ると真っ直ぐに歩いて来た。

「君達のポケモン・・・今話していたね。」

ホノカ
「ポケモンが話した？あなた何言って・・・」

N
「そうか、君達もポケモンの声が聞こえないのか・・・かわいそうに。ボクの名前はN。ポケモンを愚かな人々から救うために日夜戦っている・・・早速だけど、君達のポケモンの声、聞かせてもらう

よ。」

次回、激突！！

第０３話：Ｎとの戦い！挑戦、サンヨウジム！！

Ｎ
「行け、ボクのトモダチ・・・チョロネコ！」

ボム！！

「ニャ～！」

ハレタ
「チョロネコか・・・行け、ミジュマル！」

「ミジュ！」

Ｎはチョロネコ、ハレタはミジュマルを出し、戦わせた。

ハレタ
「ミジュマル、水鉄砲！！」

「ミジュ～！！」

ブシュッ！！

「ニャ～！！」

チョロネコは倒れる。

Ｎ
「・・・そんな事を言うポケモンがいるのか・・・！？」

ホノカ
「？」

N
「モンスターボールに閉じ込められてる限り、ポケモンは完全な存在になれない。ボクはボクのトモダチのため、世界を変えねばならない・・・」

Nは去って行った。

ミツミ
「変な人ね・・・」

ハレタ
「気にしないで行こうぜ！確か最初のジムがあるのは、サンヨウシティだったよな！」

ハレタ達は2番道路を抜けて、サンヨウシティに着いた。

ハレタ
「着いた！さてと・・・お！あっちに草むらがあるぜ！」

ミツミ
「あっちは3番道路か・・・新しいポケモンがいるかもね。」

ホノカ
「ちょうど良いわ、あっちで戦力を補充しましょう。」

※本来、トライバッジを入手しないと3番道路には行けません。
ハレタはシママとモグリュー、ミツミはマメパトとミネズミ、ホノカはコロモリとダンゴロをそれぞれ捕獲した。

サンヨウシティジム

ハレタ達はジムのトレーナーを2人撃破し、ジムリーダーのいる場所にたどり着いた。

ハレタ
「たのも〜！！」

デント
「ようこそいらっしゃいました。」

緑色の髪の少年の後ろから、赤髪の少年と青髪の少年が現れた。

ポッド
「オレは炎タイプで暴れるポッド！」

コーン
「水タイプを使いこなすコーンです。お見知り置きを。」

デント
「そしてボクが草使いのデントです。」

ミツミ
「3人もジムリーダーがいるなんて。」

デント
「普段ボク達は、挑戦者が最初に選んだポケモンによって出るジムリーダーを変えてます。ですが今回は、ボク達全員で勝負します！！」

ハレタ
「やってやるぜ！シママ！！」

ミツミ
「マメパト！！」

ホノカ
「ダンゴロ！！」

ポッド
「行くぜぇ、ダルマッカ！！」

コーン
「行きなさい、オタマロ！！」

デント
「頑張って下さい、モンメン！！」

モンメンがいきなり前に出る。

「モーン！！」

ブワッ！！

ハレタ
「みんな、避けながら攻撃だ！！でんげきは！！」

バシン！！

「マロォ～！！」

ホノカ
「ダンゴロ、ロックブラスト！！」

ドガガガガ！！

「ダル～！！」

ミツミ
「マメパト、かぜおこし！！」

バシッ！！

「モーン！！」

ポッド
「おっと、いきなりやられたか。」

コーン
「そうこなくては。」

デント

「では、こちらも切り札を出しましょう・・・」

デント・ポッド・コーンがボールから出したのは、ヤナップ・バオップ・ヒヤップの3体だった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1675s/

ポケットモンスターＢＷ物語～ハレタと７人の勇者達

2011年10月3日04時26分発行